

2018 年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏 名
人間健康学部 人間健康学科	准教授	渡辺 弥生
最終学歴	学 位	専門分野
愛知医科大学大学院看護学部	修士	老年看護学

I 教育活動

○目標・計画

(目標)

- ・「真に信頼して事を任せうる人格の育成」を念頭に教科の目標の達成および資格取得を促し、学生の受講姿勢がよくなり、学習意欲が高まり、関心のもてる講義を展開し、出席率を高める。」
- ・信頼されるためには、いつもそこにいるということが大切であると考え。健康学部で学ぶ意味は健康に毎日活動することであることを伝えていきたい。そのためクレドにも健康について示した。
- ・「オンリーワンを、一人に、ひとつ。」のコンセプトを意識し一人一人の学生の思いを尊重し目標が見えてくるように関わりたいと考える。
- ・学生に対してユーモアや親しみやすさは必要と考えるが教員が「真面目」に取り組むことで学生にも自ら「真面目」に取り組む姿勢を持ってもらえるような姿勢を持ちたいと考える。
- ・「子弟を教育するは、私事に非ず。天に事（つか）うるの職分なり」を念頭に自らが謙虚にまじめに教育に専心したいと考える。

(計画)

<基礎演習>

この科目は対象が1年生であり、大学生活に適応し、大学での学び方を学ぶ。学生は入学し、初めての必修科目としてこの演習に参加する。大学では自立であり、単位習得には自己の計画的な取り組みが必要であることの自覚を促す。自分を律して、自分で文章を書いたり図書館を活用できるよう進めていく。演習内容は学部で企画されているため、内容を理解しすすめていく。

<総合演習>

この科目は2年生が対象である。内容は家庭看護とし、自己の健康管理また健康を害した場合の対応、家族（小児～高齢者）への家庭での看護を学ぶ。バイタルサインの測定や救急処置など実習を取り入れ学ぶ。2年生は学年が上がり将来に向けて考えていく必要がある一方目標を見失う時期でもあるため、一人一人の思いを引き出せるよう個人面接も取り入れる。

<人間と健康>

この科目は対象が1年生（一部他学年）であり、学部の名称とも重なる。健康がもたらす人間の幸福を念頭に健康が一人の幸せにとどまらず社会に影響することを伝える。健康に関心がもてるよう、また健康管理を実践し、将来的に指導・アドバイスができるよう、基礎的内容から活用できる内容とする。受講人数が多いが毎回小レポートを課し、学生は学び始めの大切な時期であるため学びの確認とコミュニケーションを図り進める。

<環境保健論>

この科目は3年生が主たる受講生である。環境は地球規模から身近なことまで多岐にわたる。基本的な環境の知識を持ちながら個人の健康への影響を考え、今後将来を担う世代として考え

られるような内容としたい。特に健康を維持するうえで一人一人の環境対策が大切なことから身近な対策について意識させたい。講義が中心の教授方法となるが DVD の活用や個人の考えが述べられる機会をもつなど主体的な意見交換ができる機会を持てる講義の進行とする。

<医療概論>

医療への学生の関心を確認し医療の歴史、医療の概念、医療の現状と問題点について内容を精選して教授する。

<養護概説>

児童・生徒の健康について学ぶ。学生は高校まで自ら養護を受けているが、そのことに気づかせ、どんな場面で守られてきたのかディスカッションなど取り入れ、主体的に考えさせ、学ばせたい。

<看護学>

看護を専門教育としてではなく、一般の学生に対して講義することは初めてであり、興味深い。看護の現状と問題、歴史、さらには日頃から看護の視点で健康を維持するための方策について学んでもらいたい。看護は心が大切だが、他人を思いやること、気づき、環境を整えることで疾病予防ができることを学生とともに新しい視点で学びたい。この科目でも場面設定しグループワークなど行いたいと考える。

○担当科目（前期・後期）

（前期）人間と健康、環境保健論、基礎演習Ⅰ、総合演習Ⅰ

（後期）医療概論、養護概説、看護学、基礎演習Ⅱ、総合演習Ⅱ

○教育方法の実践

計画に沿って進めた。80人以上の学生が受講した養護概説以外の科目では、講義毎に配布した資料に、学んだ内容や感想、テスト形式で回答をしてもらおう等、一方的な講義とならないように工夫した。少人数の養護概説ではロールプレイなど取り入れ対話型の講義を行った。看護学ではバイタルサインの測定や車いす移動の技術習得等ができるように実習を取り入れた。

○作成した教科書・教材

なし

○自己評価

多人数の講義では席の指定や資料の工夫、DVD など視聴覚教材の活用など行ったが、関心を持ってもらえないこともあった。今後は学生が興味をもって講義や実習に臨めるよう、さらに内容の精選と教授法の工夫を行いたい。多人数の講義では資料を配布し、ノート形式としてその資料を持ち込むテストとした。このことは資料の作成、テストに活用という点で学習効果があったと考える。その内容については後から学び直ししやすいようなノートづくりをする必要がある。また、多人数の講義では発言をしづらいようであるが、皆の前で発言することも経験となるため講義する者が余裕をもち、学生も意見や質問ができるような雰囲気づくりをしていきたい。

少人数であった養護概説では、学生と対話し、よい講義となった。

医療概論など科目によって、途中で受講をやめてしまう学生が多い科目もあり、対象の興味を確認した講義計画を立てる必要を感じたので今後、学生のニーズを把握した内容や方法の検討していく。

II 研究活動

○研究課題

- ・看護を学ぶ社会人の問題点について検討し、学習環境を改善する。

- ・看護学を学ぶことでの一般学生の健康観への影響を検討し、一般学生が看護学を学ぶ意味を明らかにする。

○目標・計画

(目標)

- ・社会人が看護師資格を取得するために看護実習を行う上での困難感について調査し実習指導者、指導教員の関わり方を検討し実習環境の改善を図る。
- ・一般学生が看護学を学ぶことの意味(仮)は特に健康観への影響について検討する。

(計画)

- ・前任校で対象学生へのアンケート調査を行い、データの分析は行っている。現在日本看護学会(教育)へ投稿中である。採択されれば8月に学会発表予定で、発表後は論文投稿予定である。第1報では、社会人が医療職の常識をどうとらえたかに焦点をおきまとめる。第2報は、評価などについて焦点をおきまとめ、愛知県看護教育研究学会へ投稿予定である。
- ・本年は文献検討を行い、基礎データとして後期に行う看護学受講者にこの科目を学ぶ目的や看護へのイメージを調査できればと考えている。

○2011年4月から2019年3月の研究業績(特許等を含む)

(学術論文)

- ・渡辺弥生、野口健太、麻績恵 「看護を学ぶ社会人学生の臨地実習での思い」 愛知県看護教育研究学会第22回(p23~29) 2019
- ・渡辺弥生、野口健太、柴田竹晴 「基礎看護技術テストにおける模擬患者体験をした卒業生の思い」 愛知県看護教育研究学会第21回(p32~37) 2018
- ・渡辺弥生、野口健太、三井美智 「看護専門学校における学生への欠席に対する指導 A県内看護専門学校の教務主任の調査」 日本看護学会(教育)(p43~46) 2018
- ・野口健太、島田美奈、渡辺弥生、井本英津子 「看護専門学校における新人看護教員のストレス要因と支援状況 講義・演習に焦点をあてて」 愛知県看護教育研究学会第19回(p45~52) 2016
- ・野口健太、林由利江、島田美奈子、渡辺弥生 「看護専門学校における新人看護教員のストレス要因と支援状況 臨地実習に焦点をあてて」 愛知県看護教育研究学会第18回(p35~43) 2015
- ・井本英津子、島田美奈子、渡辺弥生 「看護専門学校における海外研修旅行の取り組み 旅行後のアンケート分析」 愛知県看護教育研究学会 第18回 (p18~27) 2015
- ・野口健太、島田美奈子、渡辺弥生、井本英津子 「看護専門学校におけるケーススタディの学習方法の現状」 愛知県看護教育研究学会 第15回 (p54~60) 2013
- ・青木由利江、井本英津子、稲葉太香子、渡辺弥生 「看護技術チェックを受ける学生の思い」 愛知県看護教育研究学会 第15回 (p21~31) 2013
- ・青木由利江、渡辺弥生、 「在宅看護方法論の授業に自助具の作製を取り入れての学び」 愛知県看護教育研究学会 第13回(p46~56) 2011

(学会発表)

- ・渡辺弥生、野口健太、麻績恵 「看護を学ぶ社会人経験者の臨地実習での困難感 医療職の常識と一般職の常識」 日本看護学会(看護教育) 2018
- ・渡辺弥生、野口健太、麻績恵 「看護を学ぶ社会人経験者の臨地実習での困難感 実習評価に焦点をあてて」 愛知県看護教育研究学会第7回 2018
- ・渡辺弥生、野口健太、三井美智 「看護専門学校における欠席状況に関する調査 欠席を少なくするための取り組み第1報」 愛知県看護教育研究学会 2016
- ・渡辺弥生 「病棟看護師の高齢者への退院支援に関わる行動と高齢者理解とその関連要因」 日

（その他）

- ・渡辺弥生、今井範子 「3年課程カリキュラムにおける実習調整と実習指導の進め方 基礎看護学編」 看護人材教育. Vol. 7. No5. 48-58. 日総研. 2011
- ・渡辺弥生、今井範子 「3年課程カリキュラムにおける実習調整と実習指導の進め方 精神看護学編」 看護人材教育. Vol. 8No 1. 125-134. 日総研. 2011
- ・渡辺弥生、今井範子 「3年課程カリキュラムにおける実習調整と実習指導の進め方 老年看護学編」 看護人材教育. Vol. 7No6. 128-134. 日総研. 2011
- ・渡辺弥生 「学内で学生が抱える問題とその対応方法 学生が欠席しないための取り組み」 看護人材教育. Vol. 12No2. 85-91. 日総研. 2015

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

なし

○所属学会

愛知県看護教育研究学会、日本看護教育学会、日本看護学会、日本老年看護学会

○自己評価

研究発表は2回行い、その2回分を統合して1本論文とした。論文は採択されたので評価したい。当初目標とした「健康観」に関する研究は文献検討を行った。次年度に繋げていきたいと考える。

III 大学運営

○目標・計画

（目標）

地域連携委員会のメンバーとして積極的に活動する。

人間健康学部の中での役割を理解し行動する。

（計画）

- ・地域連携委員会の一員として参加できる行事には積極的に参加し貢献する。
- ・人間健康学部の一員として学務を理解し、主体的に活動する。
- ・年間の行事に参加する。
- ・本年は着任初年度であるため、まず指示を受けたことに関し責任をもって遂行していく。
- ・他の教員とコミュニケーションを図り信頼されるように努める。

○学内委員等

地域連携委員会委員

○自己評価

地域連携委員会では、平和が丘春祭りや納涼音楽祭など各種行事に参加した。地域連携活動報告会では、企画運営に関わり、よい発表会となった。初めての参加ではあったが各行事とも大学が地域に貢献しようと教員・事務の方が努力されていることが理解できた。微力ではあるが今後も貢献できるよう努力していきたいと考える。

学部の役割では、中退防止の取り組みとして情報をまとめていく役割を担った。情報を教員間で共有し、学生の立場になり教育を行うことで少しでも中退が防止できれば良いと考える。来季もこの役割は担っていくため貢献していきたい。

IV 社会貢献

○目標・計画

(目標)

看護専門教育に関わり看護師育成に貢献する

(計画)

後期【老年看護学概論】を講義の依頼をされているため、許可を得て実施

9月名古屋市の臨地実習指導者研修講師を依頼されているため、許可を得て出向く予定

○学会活動等

愛知県看護教育研究学会 理事

○地域連携・社会貢献等

名古屋市臨地実習指導者研修 講師

まつかけ看護専門学校老年看護学概論 講師

○自己評価

本業の支障にならないように外部の講義を行った。専門教育に貢献することで、新しい情報を得、学内での講義や研究に生かすことができた。

V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

愛知県看護教育研究学会査読者

VI 総括

初年度としては、学生の反応を見ながら講義の進行ができた点では、十分ではないが、自分なりに努力できたと考える。2年生の演習の学生からは3年次の演習の希望を出してもらうことができ、興味を持ってもらうことができた。演習学生とのコミュニケーションも良好であった。また保護者との面談でもよい評価をいただいた。学生が学ぶことに意欲を持てる環境づくりをしていきたいと考える。多人数の講義では、スマホの持ち込みや居眠りなど学生の受講態度を注意することはできたが、講義の妨げとなったこともあり、問題学生以外の学生に配慮しながら注意をするということの困難さを感じた。学生を信じたい面と教員の甘さを見ているなという面があり毅然とした態度で学生には接していきたいが、細かく声掛けしたりしながら信頼を得た上で乗開わりをしていきたい。社会に出て恥ずかしくない態度の育成も重要と考える。

大学運営では、最低限の仕事しかできていなかったと考えるが、委員会活動以外の大学祭への参加、各種行事の参加など積極的に参加し、本学の教員としての役割が果たせるよう努力した。

次年度は研究活動にも力を入れていきたいと考える。

以 上